（明治四十一年十二月三日第三種郵便物認可）（日刊）毎週月曜及祭日の翌日休刊　明治四十三年七月十九日（火曜日）　第四百五十九號（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年　紀元二千五百七十年
本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金四十五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行金一圓▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

雜報

日露協約に就て（駐日露國大使の談）

日露國大使曰く日露新協約は別段に新たなるものにあらざるも余が就任以來二箇年を經たる今日之れが成立を見るは日露兩國皇帝及其の政府と共に幸慶を感ぜずんばあらず動もすれば米國務卿ノツクス氏の提議が新協約締結の一因なるが如く唱ふるものあるが是れは其の間の歴史を知らざる者の推測のみ本協約は千九百七年の協約が積極的に示したるものを一層明白に示し極東に於て兩國の有する共通の利害關係を一致し且つ補强せんとするに外ならず現狀維持に努力する爲め其の絶大なる協調を公示したるものなれば何れの國と雖も之れに異議を挾み入るべき理由なし本帝國は過去の奮闘により軍事的强國となれり然れども尚ほ經濟的平和的鞏固なる使命を存するや明なり之れを保つには平和と永久的基礎の上に極東の現狀を維持すべく是れ即ち本協約の目的とする處なり余は大阪より歸途列車内にて田園を眺め農夫の足を水に浸して勞働に勉强せるを感心せり其の勉强の民と先見の明なる當局者との間に新協約成立せしめたる以上日露兩國は必靜に平和の發展に從事せざる可からずと云々

日露協約の由來

十三日々露兩國政府より發表されたる第二次協約の締結由來について聞くに昨秋故伊藤博文公が東清鐵道訪問露國藏相コヽツオフ氏と會見の當時兩國政府當路に於いても内々日露兩國の國交をして一層親善ならしむるために何等かの方法を講じてはてふ意嚮を有しその最良の策としては滿洲に於ける兩國の關係につき協定を遂ぐるが妙ならんとの意見は兩國の齊しく抱持するところなりしが而も伊藤公爵は哈爾賓に於いて不慮の災禍を招ぎ非公式にすら兩國意思の疏通協定議に第一歩を進むること能はざりしがその後と雖も機わらばこれに手を染めんとは兩國の一致する意嚮なりき然るに去る五月中旬の交に至りて機運頓に促進せられ兩者の希望は稍や具體的に商議を遂げらるゝこととなり遂に今回の第二次協約締結を見るに至れるものなればその因由するところは遠きもいよ〳〵兩國の商議となれるは最近のことにてその成立又比較的短時日なりき而して本協約の締結は戰後行はれたる第一次の協約效力に果して如何の影響を與ふべきかといふに第一次のものは廣き意味に於いて日露兩國の協約をなせるものなるも今次の如きはその範圍を滿洲に極限し居り兩者の間自然差異あれば第一次協約の效力は依然存續し聊かの影響を受くるものにあらず尚新協約第二條第二項日清露清間の滿洲に關する文書を日露兩國に於て交換すべしてふ協定の結果は如何に行はるべきかといふに這は第一次協約當時にも行はれたることなれば今回は兩國第一次協約締結以後のものゝみを交換すれば足るべき次第なり尚更に新協約の全文について見るに本協約は如何にも滿洲鐵道に關して重きを措けるが如き傾きあるも而も實は滿洲の現狀維持てふ點に最も重きを措けるものにて只日露兩國鐵道が動もすれば競爭的に陷り易き現勢なるを以て他日彼我の競爭を馴致し延いて兩國の感情を阻隔するが如き憂ひに備へんとするものに外ならず左れば特に今日の協定を機として前記鐵道と兩國關係が明記されたるものなりといふ

大連と沿海航業

大連港は將來北清の中繼港として發達せざるべからざるが中繼港の要件は其港を中心として附近の沿岸航業を盛ならしめざるべからざるも目下大連を中心として沿海航業に從事し居れるものは僅に芝罘安東縣芝罘龍口間の航業位に止りて而も甚だ振はざれば之れを盛ならしむると同時に渤海灣沿海並に韓國沿岸迄航路を擴張するは大連港發展の爲め甚だ必要の事たり此時に當り阿波共同會社の天津大連間の航業計畫は此趣旨に合含し且つ時宜を得たるものにして大連の爲め喜ぶべき現象なり之れに關して某港灣通は語りて曰く南清に於ては上海北清に於ては大連は中繼港たるべき地位にあるは何人も疑はざる所なれども大連は新開港なれば到底上海の如く俄に盛況を來すを得ざるべしされど今日より中繼港たるの資格として沿海航業の發展を計ると同時に荷役料金を低下し倉庫を完全となして低料の保管をなし以て貨物の集中場所となし之れより沿海航業に依りて需要に應じて集中貨物を移出せざるべからず然り而して目下大連の勢圏内とも見るべき土地も上海より貨物の出入をなし居れるが之れを大連に引付んとするには商品生產上海間と上海と需用地間の運賃其他の料金合計が生產地大連間と大連需用地と間の運賃其他の料金合計と同一となるか若くは其以下たらしめざるべからず云々

●兼二浦と工場移轉

兼二浦に於ける京義鐵道工場は今回愈平壤へ移轉する事となり既に近日の内に着手する筈なるが目下兼二浦は人口日に減少し市況振はず全く寂寞を極めて一般居留民は今後尚如何なる程度迄沈衰するに至るやに悲觀し居れる由なるが只一の鐵道工場あるのみにて辛ふじて同地の運命を保持せる狀態なるに右の工場にして前記の如く愈々平壤へ移轉する事となれば折角に黃州兼二浦間の支線あるも殆んど兩地間に於て列車を運轉する程の値ひなく偶々平壤鑛業所に於ける炭鑛運輸の用に供せらるべしなど云ふものあるも之れ又同炭鑛の輸送に就ては其經費其他の上に於て特に兼二浦を經ざる可らざるの必要を生せざる以上は同支線は殆んど存置するの要なく隨つて兼二浦に於ける今後の狀態に就ては誠に氣の毒千万なる次第なりとど

文苑

▲春畝公詩存拔翠

●臺灣巡視中作

即是神州南海關。節旄今日入臺灣。
一條鐵路穿山出。萬頃秋田傍岸環。
綠樹花開荊棘裏。水牛背露潤流間。
途逢父老詢新政。口碑皇恩及島蠻。

講談

大岡政談 越後傳吉　第二十五回　旭堂南陵講

金「ハヽア、なるほど、イヤこりやア誠に何うも恐れ入りやの鬼子母神、實にゑらいもんだ、流石ア飯炊から、米搗から、油搾りから成上つた傳吉大番頭、御家老……　可「餘計なことをいひなますものぢやアありんせん、皆な主が惡いんざますから、能うく謝まんなんし　金「飛んでもないことになつた、イヤ謝らなけりやアならねヱ、嘘だ傳吉どん相濟まなかつた　傳「イヤ、私にそんなことをいつて謝つて戴いちやアなりません、お客樣のことでございます、お客樣に過ちのないやう何所までも守つて行きますのが店の者の役目、何うかそんなことは御遠慮なく仰しやつて下さいまし、何うぞ御緩りお遊びを願ひます、併し丁度今日で二日目になりますから今晩お遊びになりましたらお歸りを願ひます　金「イヤ恐れ入つた、返す〳〵も御異見に與かつて面目次第もない」金之助はいよ〳〵頭を押へて縮んでしまつた　金「時にこれは何も輕少だけれど、お前さんへ禮のしるし　傳「イヘ、決して左樣な……　金「マア〳〵さういはないで、この金子を取つて貰はなくちやア金之助が困る」無理から二兩のお金子を傳吉に渡す　傳「有難う存じます」といつて傳吉は戴いて歸る、この金之助といふ者と可祝といふ者の兩名の身の上から傳吉大難に遭ふた話が後にでございますから、何うぞお覺ねを願つて置きます、諸事万端斯ういふ風に傳吉は立廻り、いよ〳〵三浦屋の財產は年を追うて殖るばかり、足掛け四年滿三年働いて、傳吉が貯蓄の金子を調べて見ると二百七十兩といふ大金、當今の二百七十圓は何でもないが、享保時代の二百七十兩と申すと、當今の五千圓ぐらゐになります、實に傳吉のは一厘二厘から蓄めた金子、サアこれを持て早う故郷へ歸り、叔母親やお梅をば悦ばさうと思ひ懸ると矢も楯も堪らない、三浦屋四郎左衛門の前へ出て　傳「へエ旦那樣　四「何だね傳吉　傳「長らくの間御奉公をさして戴いて有難う存じます、戴いた金や何かをこの樣に蓄めて置たのが二百七十兩でございます　四「ゑらいものだね、傳吉どん、マア吉原の廓が始まつてから、お前さん一人だ、皆な前にもなけりやア後にもなからうといつて居ります、この廓で三年の中に二百七十兩の金子を蓄めるといふのは、本當に珍らしい　傳「就ては暇、てお話申しました通り、故郷には叔母なり女房のお梅が待て居りますから、この金子を持て歸り先祖より無くしました田地田畑を取返し、以前の井上傳左衛門の家を興したうございます、何うぞお暇を願ひたいもので……　四「サア困つた、傳吉どん、お前に暇をくれといはれた日にやア、折角乃公の家も此所まで來たのに悉皆潰れてしまふ、何うだね傳吉さん、お前さんの要用の金子ぐらゐなら乃公は幾らでも出して遣げるが、斯ういふと何だが、越後の頸城邊りで暮すよりか、同じ暮すんなら江戶だ、何時か吉原近邊で格好の家を借受け、お前の女房さんとやはやさんを呼び寄せてお前は此家へ通い番頭となつちやア、その間に格好の樓があつたらそれを買つてお前を其樓の主人とするから、そのときにやア三浦屋の分家といふやうなことにして、ナア傳吉どん氣樂に暮したら何うだね、惡いことアいはねへからさうしなさい、さうする方が餘程面白い、故郷へ歸つて田地田畑を取り返した處で百姓ぢやアないかさうしたらどうだね　傳「ハイ……」言はれたが傳吉榮耀榮華はしたくない、鋤鍬を摑んでも構はない、先祖からの田地田畑を取返し、星を戴いて稼ぎ、星を戴いて寢やうとの覺悟、この邊の心根や實に何うも見上げたるもの、人たるべき人の道を踏んだる人は實に傳吉でございます、されば三浦屋の主人も放しともなく思つて、いろ〳〵と止めて見ました。

京城待合案内

東京電報

▲陸軍卿の退京　東京中の米國陸軍卿ヂッキンソン氏は十七日奧參謀總長の主催の後樂園に於ける午餐會に出席同夜退京す(十七日)

▲海軍の大交迭　第一期練習艦は已に解隊せられ第二期練習艦隊編成せられたるに就き左の通り司令官以下の交迭ありたり(同上)

吳鎭守府附海軍少將　八代六郎
免本職補練習艦隊司令官
練習艦隊司令官
海軍少將　伊地知彥次郎
免本職補海軍將官會議員
橫須賀豫備艦隊司令官海軍少將　野元綱明
免本職補第一艦隊司令官
海軍少將　小泉榮太郎
補橫須賀豫備艦隊司令官
鎭海海兵團長海軍大佐　土屋光金
免本職補橫須賀鎭守府參謀長
壹岐艦長海軍大佐　上村經吉
免本職補鎭海海兵團長
第八驅逐隊司令官
海軍大佐　吉島重太郎
免本職補壹岐艦長
海軍中佐　大久保朝德
休職被仰付
第十二驅逐隊司令海軍中佐　岡田平次
免本職補第八驅逐隊司令官
練習艦隊參謀海軍中佐　塚本則俊
免本職海軍省軍務局課員
竹敷要港部副官
海軍少佐　水野作造
免本職補壹岐水雷長
練習艦隊參謀海軍少佐　山本英輔
阿蘇航海長海軍少佐　岡村秀次郎
免本職姉川航海長

▲電車の大椿事　昨十七日午前十時赤坂見附にて電車衝突し乘客即死三名重輕傷四十餘名を出せり負傷者は直に病院に收容し治療中なるも生命危篤者數名あり(同上)

▲大博覽會工事　來る五十年開催の日本大博覽會の工事は明四十四年度より着手するに決したり來年度の工事は先づ事務館の建設正門の道路青山代々木連絡道路修築其他用水道の敷設等なるべし(十八日)

▲練習艦來韓期　練習艦淺間笠置の兩艦は本年の兵學校卒業士官候補生を載せ明十九日午後廣島發鹿兒島膠州灣威海衛旅順大連を巡航し八月五日仁川入港四日間滯在九日仁川發十日鎭海灣に到着す(同上)

▲陸軍卿北京行　目下來京中の米國陸軍卿ヂッキンソン氏は非律賓を視察したる後九月北京を訪問すべし(同上)

▲兵學校卒業式　今十八日江田島海軍兵學校卒業證書授與式を擧行したり(同上)

▲來年度增收額　來年度歲入豫算は目下大藏省に於て調査中なるが世間傳ふるが如く二千萬圓と云ふが如き巨額の自然增收は豫期し難かるべしと(同上)

▲關門海峽整理　政府は關門海峽改良繼續費として千三百萬圓を計上し取敢ず本年度に於て五十萬圓を支出し目下航路の改良碇泊地の擴張等整理工事に着手中なるが更らに工事を進捗せしむるの必要あり來年度豫算には同海峽整理費として二百萬圓を計上すべし(同上)

▲鐵道百年計畫　後藤總裁は我鐵道經營に關して百年計畫を立て自ら各種材料の調査を遂げ居れり(同上)

▲露國大使叙勲　天皇陛下には本邦駐剳露國大使マレウイッチ氏へ勳一等旭日桐花大綬章を授けられたり(同上)

▲陸軍卿歡迎文　國際新聞協會の德富副會長は協會を代表して米國陸軍卿ヂッキンソン氏を訪問し歡迎文を贈呈したり(同上)

▲新任勅選議員　左の如く任命されたり
從三位勳二等　小野田元熙
正四位勳一等　山內万壽治
貴族院令第一條第四項に據り貴族院議員に任ず(同上)

▲古市博士渡歐　日本大博覽會工事監督工學博士古市公威氏は日英博覽會ブラッセル博覽會伊太利萬國博覽會の建築工事を視察の爲め渡歐せり氏は十一月歸朝すべし

▲石橋大佐の昇任　海軍大佐石橋甫氏海軍少將に陞任したり(同上)

▲河鰭子爵の薨去　正三位子爵錦鷄間祗候河鰭實文(六六)薨去し特旨を以て從二位勳四等に昇叙したり

倫敦電報

▲本邦議員傍聽　日本國會議員は英國下院の知名外國人傍聽席を占め大臣に對する質問を興味を以て傍聽したり海軍豫算の討議始まるや急進派より本豫算を以て徒に巨額なるものとしたるに對し總理大臣アスキス氏が豫算の增加を辯議し英國海軍造艦計畫は獨逸を目的とするものなりとの說を否定し獨逸政府は其既に決定せる海軍造船計畫あるを以て英國の軍備制限提案には同意する能はざるも獨逸との關係は極めて親善なりと述べたり(同上)

上海電報

▲葡清兩人衝突　マカオに於て葡萄牙人と支那人と衝突して互に死傷あり兩本國政府は各軍艦を派遣し事態重大なり(同上)

雜報

●韓字新聞の取締　明石警務總長は十八日午前十一時韓字新聞大韓每日申報大韓新聞皇城新聞國民新報大韓民報大韓日々新聞社の社長及發行人を警務總監部に召集し新聞取締に關し警告する所ありたり其の要領は今回韓國警察事務委託の結果從來韓字新聞に對する取締は警視廳にて爲し居たるも今後は當總監部に於て新聞記事の檢閱は勿論一切の取締を施行する事となれり就ては從來韓字新聞の論調を見るに往々慷慨悲憤の文字を弄し殊更らに人心煽動的の記事を掲載するものあるが如し今後斯かる記事を嚴禁すると共に犯す者に對しては治安維持上嚴重なる處分を爲すべし此の事特に注意する旨を告げたるに一同も其の意を諒とし退散したりと

●韓國と佛教の傳導　對韓關係の進捗に連れ世間漸く韓國の宗教なるものに注意を惹起し來り西本願寺の佛教大學の如きは同講師日下司教指揮の下に夏季休暇を利用して已に傳導に着手し同派の宿老島地默雷師も九月頃には來韓の筈なるが今回寺院の實況巡視を爲したる橫山內部事務官の談によれば韓國の佛教は全く有名無實にて各寺院僧侶の狀態は沙汰の限り一寺院に多きは老若男女三百人も同棲して淨土、曹洞、法華各宗の寄合世帶にて混雜を極め居れどそれでも朝夕の誦經は怠らず座禪に耽るもあり稀には民家より法會を賴まるゝこともあり而して一般人民には信仰心なきにあらずして其基督教たると佛教なるとに就ては別に愛憎心なければ今後一郡に一寺多きは三四箇寺も有する各寺院を統一して規律正しく嚴格にして手腕ある日本僧侶の手に傳道布教を圖らば其成績或は基督教以上のものを收むることも難事にあらざるべしと云へり

●各地の水害と雨期　本年は昨年に比して雨量多ければ愈々雨期にも入らば此の上の水害を見るならんとなり今最近水害の一二を擧ぐれば榮山江の出水最も多く沿岸は近年稀有の被害にて死者四名を出せり尙慶尙北道金泉市場附近は浸水約八十戶交通杜絕して郵便も不通となり又大邱南城里に沿ふたる川添汎濫のため過日日本人家屋四十戶韓人家屋三十戶浸水せしが此分は最早減水したれど田畑の損害多く昌原府大山面村井吉兵衞經營の農場水田四百町步の內百町步は全く浸水して苗莖の腐蝕を生ずるに至れりと

●副統監司法廳參觀　山縣副統監は十八日午前九時半より司法廳に抵り各局課の執務狀態を巡視の上倉富次官以下の各當事者より夫々所管事務に關する說明を聞き取り尙副統監よりは司法廳委任役に於ける裁判の成績及び韓國人が新裁判所に對する感想等に就き詳しく質問する所ありたり

●定員外吏員等恐慌　韓政府各部に定員外吏員の多くして山縣副統監は之が淘汰に意ある由は既報せしが其後各部は現員現給表を作成し之を副統監に提示する事となり目下調査中に在り然るに炬の如き副統監の眼光は果して之に違はず之が爲め各部は非常の恐慌を起し中には支出費目を彼是瀰縫して一時を糊塗せるものありと

●赤十字支部長囑托　日本赤十字社にては各道觀察使を支部長に書記官、警察部長を副長に囑托中なりしも前警察部長退官と共に同副長は自然解囑せられたるにより今回更に新任警察部長に支部副長を囑托したり

●貧民救濟院の設立　基督教青年會にては韓國內に南北二箇所の貧民救濟院を設立せんとて過日來協議中なりしが愈々設立するに決し其費用は副會長尹致昊が米國より持ち歸りし寄附金の中より支出する筈なりと

●韓太子の鳥取安着　韓國皇太子には十七日午後三時網代港着五時三十分鳥取停車場着直ちに御旅館池田侯爵別邸に入らせられたる旨電報ありたり

●帝國新聞續刊決定　西北學會の機關新聞にして目下休刊中なる帝國新聞は漢城府民會に於て引繼き株式組織として經營することに略決定したりといふ

●黃海道技術者會議　黃海道觀察道に於ては去る十五日より三日間觀察道技手、種苗場技手、金融組合技手若くは理事の打合會を開き農事に關する畫策を議したりと

●李首相と軍司令官　十七日午後一時三十分李首相は趙農相と相携へて大觀亭に大久保軍司令官を訪問したり

●フレザー商會獻品　東京セール、フレザー商會仁川代理店支配人鈴木四十氏より最新式蓄音器一揃を韓皇室に獻上せり

●東洋日報紙の解停　發行停止中なりし東洋日報紙は十八日を以て解停せられたりと

●仁川病院披露宴　仁川病院長由利弘氏長尾乙二氏は一昨十七日午後八時より仁川俱樂部に同地の重なる官民五十餘名を招待して披露宴を催ふせしが由利院長及安藤漢城病院長の挨拶に對すと橋本副理事官の答辭あり散會せしは午後九時迄なりき

●二日目の京城民會　京城民會は既報の如く十六日午後二時より開催せり出席議員京城側十三名龍山側十四名にして大分頗る面白き取組なり海津議員委員長として委員會の經過を報告し且つ議事進行の便宜上詳細の說明は各號每に之を行ふべき旨述べ夫より第一讀會を開き五號案の助役推薦承認の件は跡廻しと爲し一、二、三、四、六號の各案に就き各議員の質問之に對する委員長及民長の答辯あり此內

▲漢城銀行營業成績
資本金三十万圓(四分の一拂込)
政府貸下金十萬圓
積立金六萬三千圓
前期繰越金四千七百圓
專務取締役　韓相龍
支配人　李升鉉

水原に支店を、麻浦の東幕に出張所を有つてゐる本年上半期の純益金は本店と支店出張所のを合せて一萬七千圓、株主への配當は例年一割五分であつたが、これは多きに過ぎるとの批難があるので、此の期より多少減ずることゝなるであらう、兩三日の內に開かれる筈の總會で決定することゝなつてゐる、サテ此の期を通じては營業情態は所謂可も無し不可も無しで、夫で前年下半期同樣の成蹟を得たのは、銀行の經費節約と貸倒れの無かつた蔭である、さうな、支配人李君は私の方では地所家屋などを擔保にする長期の貸付を一切行らない約手の期限も六十日を最長期としてゐる、爲めに失敗が少ないやうである、而して日本人との取引は皆無と云つて宜しい全くの韓人本位でそして手心も判つてゐるし安心して金も出せると斯う云つた預金は五十万、貸出が四十萬、定期預金は年七分、六ヶ月六分、三ヶ月五分五厘、當座一錢、小口當座一錢貳厘

二號案助役定員二名設置の件に就き大村保太氏質問を發し曰く吾が民團の現勢にては助役二名は寧ろ過多に失す之を母國各市に比するも其必要なきを認む右は如何なる必要に基くやと叫び之に應じて古城民長曰く一名は税制及財務を司掌せしめ一名は一般行政方面を擔任せしむる筈なりと答へ更に大村氏は此際人の爲めに定員を增加するの嫌なからん事を望み且つ其一名は教育に經驗ある人を詮衡し其方面を掌管せしめられたしと希望し釘本氏の絕對的一名說ありたる後二讀會に移り一號二號を議了し三號案の龍山諸税則存續施行の件に就き竹內議員より收税に關する規則全般說ありしも一人の賛成者なき爲め不成立に歸し四號追加豫算案に入り竹內議員より龍山の家屋税全廢を提議し曰く該税は惡税中の惡税なり然れども元龍山民團の財政上涙を含むで徵收し來れるものなれば是非全廢を希望すと述べ龍山側全部の賛成あり之に對し山口、曾我、大村、石井の諸氏交々起ち反駁を加へ其要領は提議者は漫りに該税を以て惡税なりとし京城側に均霑せんと望まるゝも甚だ蟲の好き主張なり此點より言へば京城にも幾多の惡税あるべし而して斯かる勝手の主張なからしむる爲め合併當時其條件として年度內は總べて現狀の儘推移せん事を決議し置ける次第ならずや故に此種の價正に就ては宜しく正さに税制調査の結果に待つべしと慰め京城對龍山の鬪ケ原を演せしが採決の結果海津氏の委員長たりし關係より龍山側たる能はず
可とする者十三名　否とする者十四名
僅かに一名の差にて龍山側の我田引水論は敗れたり執念深き龍山側は又も手數料輕減を提議せしも採決の結果
可とする者五名　否とする二十二名
夫れより六號元龍山民長及會計役慰勞金贈與案を五號に繰上げ五號助役峰尾晉三郎承認案は一般議案と稱すべきものに非ずとて特別案と爲し五號案に就き竹內氏より民長報償金千圓を五百圓に減ぜんと主張し其理由を述べんとしたる刹那曾我氏より緊急動議ありと叫びたるも發言を許されず茲に竹內氏は語を繼ぎ曰く曾て淵上貞助氏は永く龍山に民長を就務せるも退職の際は僅かに百五十圓を酬ゐたるに過ぎず之に比すれば大久保氏は年限も短く且つ功勞の頒すべきものなし故に千圓の贈與は過多も甚だしと述べ了るや曾我氏より再び緊急動議を提出し人の功過を論ずるは宜しく秘密會たらしむべしと之を請求せるも皆川氏之に反對し遂に動議を撤回し更に大村百藏氏より千二百圓增加意見ありしも少數にて消滅し茲に採決に付したる結果大多數にて委員會修正の通り可決し三讀會に入りたるが各號讀會を省略して可決確定せり次で助役峰尾晉三郎氏承認の件を付議し民長の說明あり後採決の方法に就き碁石を用ゐ黑石にて之が可否を決せんとの說ありしが皆川氏之を駁し苟くも人の信用を問ふ問題は碁石の如き黑白投入の明瞭なるものは不可なり故に無記名投票によるべしと主張し且つ之を慣例とすべしと述べ之に決し投票の結果
可とする者十九名　否とする者七名
則ち峰尾晉三郎氏は滿場一致を得る能はずして推薦承認の光榮に浴し午後七時散會せり(電通)

●電車開通餘興縱覽　新龍山に到る電車は愈々來る廿一日より開通するに付き會社は來る二十日を以て開通式擧行の筈なるが廿一日より向ふ三日間は同社々宅の構內にて花火活動寫眞音樂及びイルミチーション等の餘興を隨意縱覽せしむるに付き參觀せんとする者は午後六時より十時迄に同所へ至るべしと云ふ

●龍山側議員の熱烈　民團合併後に於ける龍山側の意氣込みは頗る熱烈にして現に二回の民會とも出席者は殆んど全部の觀を爲し又議場に於ける其態度に見るも各自出色の議論を鬪はし到底京城議員の比に非ざるなり而して一昨十六日の民會の如き京城は僅かに十三名なるに龍山は十四名を敷へ滿場を壓倒せるの觀ありし等傍聽者をして屢々冷汗を握らしめたりと

●京城民團助役決定　京城民團助役の人選に就ては別項の如く十六日の民會に於て峰尾晉三郎氏を採用することを可決し年俸千二百圓を給與することになり又現行京城民團規則には助役一名置くことを得とあるを二名置くことを得と改正し本日理事廳へ認可の申請を爲したり

●洛東江增水と鐵道　十八日午前九時洛東江增水二丈六寸氾濫して馬山起點十七哩附近の線路浸水し軌條面二尺七寸に及び前日來のトロッコ接續杜絕尙大雨の爲渡船困難なる由同時刻同所發電報鐵道管理局に達す

●近衞公爵韓國視察　故近衞霞山公の長子にして第一高等學校在學中なる公爵文麿氏は暑中休暇を利用して韓國視察の爲め去る十六日當地來着約一ケ月間叔父津輕書記官邸に滯在する筈

●仁川會議所副會頭　仁川商業會議所副會頭に當選せし森當吉氏は或る事情の爲め辭退せしを以て十九日午後七時より同會議所議員の臨時總會を開き右補缺選擧を執行すと

●統監家族一行入京　寺內統監夫人瀧子及び令孃の一行は既記兒玉秘書官同伴下の關より釜山に上陸來る二十一日京城着の旨電報あり

●伊國武官の纛島行　伊太利大使館附武官カピリア中佐は十八日午後二時より石井少將同伴にて纛島園藝模範場を參觀したりと

●總務長官の着任期　有吉總務長官は豫定の通り愈々來る二十日入京する筈なりと云ふ

●田川獸醫の着任　韓國憲兵隊附を命ぜられたる陸軍二等獸醫田川議吉氏は十八日午前司令部を訪問したるが一兩日中咸興憲兵隊に赴任すべしと云ふ

●經理部長の出張　田中第二師團經理部長は十八日水原及成歡に出張用向は守備隊の經理事務檢査の爲めなりと

●藤波通譯官出張　藤波通譯官は事務打合の爲め十八日釜山理事廳へ出張

●佐々木部長歸任　上京中の土地調査局長佐々木藤太郎氏は十六日歸任

●やまと記者入京　やまと新聞記者畑尾健顯氏は十八日入京浦尾旅館投宿

●鮫島代議士出發　滯京中なりし代議士鮫島慶美氏は十六日出發歸朝せり

▲京城手形交換高▼

七月	金高	枚數
十八日	九六、五三〇、三六	三三一

▲治外法權▼

待ちに待つた日露協約が曲りなりにも出來た、吉長線の工事が大分捗取つた、安奉線の工事も遠からず竣成する、ソコへ持つて來て桂の段取に寺內統監が乘込んで來る、何をするダロウと今更らしく疑問を起す樣なカンの惡い人間は半島日韓人に一人も居まい、併し事がソウ明白に分かつて居る丈寺內の立場は倘やさしくない▲孔子樣は支那の古代に於てすら紳士の資格として六藝に達すべきを要求せられて居る、六藝とは云ふまでもなく禮、樂、射、御、書、數の事だ▲トコロデ今の西洋の紳士を見ると孔子樣の要求した資格をチャント具備して居る、而るに今の我紳士を見ると儒教の事なら何でも心得顏なるに孔子樣の要求資格を具備して居る者は殆んどない▲特にヒドイのは我在韓官吏及銀行會社役員等の輩だ、彼等は事務を見るに要ある書、數だけは知つて居る、併し禮、樂、射、御の方に至つてはカラダメだ▲されば是を彼等は執務時間以外は自家の體を自家が持ちあぐんで居る、玉突、謠曲、ソレコレと少しばやつて見るが熱心になれない、無聊の餘り妻君を罵しる、飛出す、茶屋酒をあをる、藝者相手にラッパ節を歌ふ、馬鹿話をする、金と時間を有害に使ふ自家の品性を傷くるに至る▲在韓官吏及銀行會社役員等に瀆職者体面毀損者等の多いのは畢竟彼等が執務時間以外に體を持ちあぐむ爲だ、官紀風紀振肅に意ある山縣副統監は此問題に同情ある解決を與ふべしだ▲獨逸のフォーレルと云ふ學者は情慾制限の目的を以て裸體クラブを起し會員が異裸體で舞踏や討論をすることを主張して居る、彼の說によると男女互に陰部を見馴れると劣情は起らぬものと▲角田竹冷羅馬古都に於ける句に曰く「飛塔や草の茂みを五月雨る」『鐘の音の敗墟に落ちて杜宇』

北京電報

▲清國皇帝賜金　清國皇帝は直隸水害救助の爲二萬テールを下賜せる(十八日東京電通)

▲協約と新聞紙　清國新聞は日露協約の結果滿洲及蒙古は全滅すべしと論せり(同上)

●平北柞蠶飼育獎勵　平安北道にては柞蠶業の有望なるを認め從來之が獎勵に力め居るが元來義州附近に於ける同業の創始せられたるは[illegible]十餘戶に過ぎざりしなり之が爲めに同道にては本年農商工部及水原模範場より種繭の配布を受け地方費を投じて義州水鎭面國記洞東谷の私有林を借り又[illegible]質不良の爲め全部斃死し水原模範場のものを飼養せしに稍々良好なる成績を得たるを以て更に清國寬甸縣より種繭を求め之と合せて約二十三万餘を解[illegible]繭頗る良好なりしより假餘地方の作蠶熱を勃起したるも韓人の惰性たる自らこに從事せんとせず漸く之を誘ひ來りて飼養せしめ彼等は山林を貸附して其料[illegible]該地方に移住し來るの奇觀を呈せり而して一方清國にては畫來に作蠶に課税せる爲に好機措くべからずと益々移住し來るの有樣なれば同道にては嚴重に[illegible]代にて種繭を配與し同時に獎勵の方法として褒賞を與ふる等の制度を定め[illegible]二日有志を召集して種繭を配付せりと

●清國皇帝賜金（橫濱日）

帝は黑龍江水害救助の爲二萬テールを下賜さる（十八日奉天電）

●協約と新聞紙（清國新聞）

[illegible]日露協約の締結滿洲及蒙古は全[illegible]誠すべしと論せり（同上）

●平北柞蠶飼育獎勵

平安北道に[illegible]柞蠶[illegible]有望なるを認め[illegible]十數戶に過ぎざりしなりしが之が[illegible]の爲め全部斃死し水原模範場の[illegible]にては農商工部及水原模範場より[illegible]ものを飼養せしに稍々良好なる成績を[illegible]擧げたるを以て更に[illegible]より種繭を[illegible]之に從事せんとせず[illegible]せる[illegible]に好[illegible]州水原[illegible]の私有林を借り受け[illegible]を求め之と合せて[illegible]二十三万餘を[illegible]飼養せしめ彼等は山林を貸附して其料[illegible]し來るの有樣なれば[illegible]にては[illegible]に[illegible]一日[illegible]を[illegible]して[illegible]を配付[illegible]熱ゝ誘起したる[illegible]韓人の[illegible]性[illegible]自らして一方[illegible]國にては[illegible]來に[illegible]課稅として[illegible]等の制度を定め[illegible]積[illegible]る良好なりしより[illegible]地方の[illegible]該地方に移住し來るの奇觀を呈せり[illegible]代にて[illegible]を配與し同時[illegible]の方法

酌婦仲居の家庭潛入

▽雇傭者の注意肝要

川柳子曰く「下女にする氣では育てぬ親心」と、成程甘い事を云つたものだ、斯く申す拙者の親なぞも三面雜報記者に爲る氣で育てた次第でなく自身も斯く蚤取眼で裏店小店の出來事を探し回る身に育てられたのでないのだ「下女にする氣では育てぬ親心」實際何うも然うであらふ、が數多い下女の間には然うでもない如なのを見受けることがある、下女にする氣で育てもし

態々下女に生れて來たかと思はれるのがある、顏も姿も心意氣も品行も特別誂へと云ふ如なのがあることは敢て拙者一人が唱導するに限らぬ、トマトーの如な頰の色、玉蜀黍の毛の如な頭の髮、蓮根の尻ッぽを押し著けた如な鼻の覗けば腹の臟腑が見ゆ相な齒は水に浸けた大豆の如、不倒翁に脚を附けた如な姿恰好、夫れで色氣があつて雜貨屋の注文取りやオイチ二の尻を追ひ回す、かと思ふと暇があると坐睡をする寢ぼけて摘み喰いをする、齒軋りをする寢言を云ふ寢屁をする、

夜間使ひにでも出すと態々出齒龜の出そうな所を撰つて步行く、然うして內々出齒龜の出ないのを齒がゆく思ひながら歸つて來ては奥さん達に若い男に追つかけられて恐かつた夜間のれ使ひは恐うムいますと氣障なことを云つて**ヘソラ**せるのがある、併し此れは內地の話しで當地のれ女中方には此樣のは一人もなかない矢張稀にはある如だが比較的少ない、其大なる原因は下女稼が目的で獨身渡來したもの〻僅少なこと、多く御主人方が內地で撰擇して伴れて來られたのであること等である

當地で傭ふ女中君等は皆一通世帶を持つた經驗のあるもので亭主に死なれたとか捨てられたとか或は夫れが病らつて居るとか又は其の失敗から別々に働いて相當の資本を得やうとか云ふ即ち兎に角**女として通用**した事があるのが多いからだ日本から伴れて來るのに至つては男女の區別の附かない樣なのは輸入せぬからである此の方は使ふ方でも使はれる方でも大抵氣心は知り合つてるから左したる不平は双方に迎ふるが當地へ傭はれて[illegible]ど**情夫**の無いのはない、自分の受持ちの用事が片付くか片付かないかに家を飛び出す夜を更して歸るのは未だしも三度に一度は**外泊**する不都合を責めると職務は盡して居ると云ふ如な顏をする、度重なると代りの有る無しに頓着なく暇頂戴と來る、來るのも來るのも夫れだ、而して韓人でも傭ふてある家では韓人に洗濯までさす、**雜貨屋**に葱や大根を注文するのは未だしも**魚類迄注文**するのがあるが此れ等は我慢もなるとして近頃殖ゑて來たのは國元から**搜査願**或は歸國說諭などを其の筋へ提出せらる〻恐れある**酌婦仲居**の**身分を詐稱**して女中奉公をして餘熱を冷すべき手段を取る傾向のあることだ雇傭者にして注意を怠ると甚だしき**害毒を家庭**に輸入せらる〻のである

船員等船客を强姦す

▽航海の危險

船員が乘客中の婦人さし見れば徒らに親切振りに之れを姦し甚しきに至りては無理遣りに强姦して拭ふべからざる屈辱を與ふる者多き事は曾つて耳にする處なるが被害者は自己の恥を思ひて之れを不問に附するを能き事となし渠等船員一部の出齒龜者流は益々其暴威を逞ふするの模樣あるは嘆はしき事なりとす現に**仁川**〇〇町二丁目に居住せる某氏方同居〇〇〇〇（三〇）と云ふ**美人**は未だ當の身の行末幸多かるべきを此の狂風に襲はれて終身拭はんとして拭ふべからざる屈辱を負ひ今や深窓の下に晴れ間なき空を望みて憂愁苦悶に塞ぢられつ〻ありてふ語るも聞くも同情すべき事實あり玆に仁川大連間を航海せる滊船**日高丸**は本月四日仁川を出帆して芝罘に向ひ翌五日同港に着したるが乘客中に前記一婦人（三〇）あり上陸せんとする矢先しも仁川より急用あれば引返せよとの來電に接したれば同船にて再び歸仁するに決し**一身の保護を同船に委**したる程に同船の賄長を勤むる大分縣宇佐郡驛館村五十九番地平民畜六の長男**辛島佐一郎**（三九）と云ふは一等室內に右美人一人最と淋し氣に在る[illegible]が見て一野心を起し其夜同室內に侵入して厭がる美人を手込みになし腕力に掛けて遂ひに之れを**强姦**し何喰はぬ顏にて翌々六日同港を拔錨大連を經て去る十日仁川に着港右婦人は泣く〳〵上陸して歸宅し家人には事實をも告げず只だ獨り包むに餘る身の屈辱を愁げき悲しみ居たるが家人は其の擧動の審かしきものあるを認め或日其れとなく其原因を問ひ糺したるに實は斯樣の**次第**と前記の始末を淚と共に**物語**りしかば家人は大に驚き默視すべきにあらずと日高丸の仁川に入港するを俟ち一昨日仁川署に訴出でたり此告訴に接したる仁川署にては由々しき事件なりとして直に警官同船に出張し辛島佐一郎を本署に**引致取調中**なるが詳細は更らに報ずべし

モウカブラヌ

▽常陸山夫婦電信問答

橫綱常陸山の妻女れちかの亭主孝行は夫れは〳〵頗る非常なもので可愛夫が地方巡業に出發したる後は每朝何より先きに其日の新聞に出る勝負の電報に目を注ぎ常陸山の名の見ゑぬ時は直ちに興行先きに電報を發して安否を問合はすを常さし居るが過日安東縣興行の千秋樂當日梅ケ谷との取組を常陸は休んで鳳が代理を勤めて居るのでれちかさんの心配は一方ならず直さま安東縣に向け「取組に見ゑぬが御病氣かヘン」と打電すると先方から打返へして「マラリャ熱に罹つて休んで居る」と返電が來たのでれちかさんハッとばかりに驚愕し直ちに懇意の醫師を訪ねてマラリャ熱の症狀などを尋ね十三日早朝「今朝の御氣分如何」と電報を以て容態を問合はせると午後一時頃其の返電に「スリバチカブリテ氣分良し午後一時滊船で大連へ行く」とあつたのでさてはマラリャ熱の症狀などを尋ね十三日早朝は案外經過が良いのかと漸く愁眉を開いて安堵の胸を撫で降ろしたもの〻譯らぬのは「スリバチカブリテ」の一事で橫綱の事だから又何か無理な事をして居るに相違なし何かは知らねど止めるに如かずと大連へ向け「アマリカブルナ」と打電したるに「モウカブラヌ」とは返電ありしとは振つたり

暴徒の絞刑宣告

▽判決に服從すべきか

平安北道江界郡北門內姜元浩（二八）が明治四十一年十二月より本年三月頃迄暴徒首魁黃順一並に姜基東に從ひ左翼左將となり部下數十名を率ひ京畿道揚州郡抱川郡各方面を橫行し良民を苦しめ金品を强奪し或は銃殺し若しくは放火し何れも銃器兇劍を携て非行を逞し居たるが暴運盡き最きに京城第二憲兵分隊の手に捕れ檢事局に送らしが十八日京城地方裁判所に於て塚原裁判長河村檢事の係にて絞刑に處す旨宣告あり

女五人に男一人

▽夫れは酌婦と口入屋

仁川署水上係の澤巡査が昨日午前群山より仁川に入港したる神代丸に出張臨檢したるに三等室內に怪しき男が未だ二十歲前後の婦女五名を引連れし模樣の不審なるものあるにぞ或は婦女誘拐の惡漢ならんかとの疑を起し直に仁川署に同行して取調べたるに右男は群山榮町居住の紹介業中里京松と云へる者にして婦女の名前は岡山生れの岡田たつ（十九）の愛媛縣生れの矢野たつよ（二三）高知生れの野口しめよ（十八）奈良生れの森田たつね（十九）廣島生れの中野しま（二二）と云ひ狹い群山にては然るべき賣口もなきにぞ京仁間の魔窟に高値にて賣飛ばし漁夫の利を占めんとしたるものなる事判明せしかば拘留の上取調中の由なるが斯かる人鬼に等しき口入屋は片端し極刑に處せられたきものなり

思ひ切つた親と子

▽八歲の子の獨り旅

可愛い子に旅をさせとは昔よりの言傳へなるが如何に開明の今の世なりとは云へ是はまた思ひ切つた親のやり方とこそいふべけれ韓國釜山鎭百十五番地に居住する河野ふさは其の長男義明（八）こと先日八重の潮路の獨り旅として門港より滊船壹岐丸に便乘せしめ同船事務長に保護方を依賴して出發せしめしに義明もさるもの別段寂しがる事なく喜々として戲れつ〻下の關港に着し同港より沿道警察署の保護を仰ぎつ〻十二日東豫丸にて伊豫新居濱港上陸同町派出所池田巡査の保護にて別子山村字木方石田彌市なる彼が祖父に當る者の許に歸りたりとの事なるが流石は他國に人と爲りし丈けありて何所やら膽の据つた見なりと同地方にて評判

女房の權利主張

▽主張の一部を貫徹す

中部洞口內居住主聖圭（三五）は金姓女（三二）を妻に貰ひ本年二月より附近に酒幕商を營ませ淫賣をもなさせ居りしが金姓女は此の頃主聖圭に嫌氣を生じ機もあらば逃走せんと思ひ居る內北部管內三齋洞居住の崔起鎬なる者或日酒飮みに來り例に依りチョッコン五十錢を貿行せしに双方共妙なりしと見へ金姓女より自分の望みを話したるより崔は大に喜び目下妾一名搜査中なれば妾に爲さんと相談一決し密かに逃げ出で崔の宅に至り妾になり睦じく暮し居りしに一方主聖圭は大事な戀女房が逃走したので吃驚仰天死にもの狂ひとなり八方に行衛搜査中十七日夜午後八時頃前記崔方に隱れ居る事を知り直に崔方に行き妻の金姓女に會ひ是非戾り呉れと嘆願せしに金姓女は貧許の樣な妻を愛せぬ人は前途望みがない崔さんの樣な親切な人が出來ましたから斷然嫌やさと應ぜざるにぞ北部署に突き出したるより警官取調べしに金姓女は相手嫌はず淫賣させる馬鹿な男は嫌や崔の妾が好きだと强情を張るを韓人警部は主聖圭に淫賣を止めさせ元の通り夫婦になれと說諭して放還せりと

民團醜吏の控訴

▽如何なる理由あるにや

民團公金費消醜吏の夫れ〳〵判決言渡されしことは既報の如くなるが何所までも不埒なる彼等は滿喜三一人を除く外六名の醜吏は一審の**判決を不當**として十六日控訴したる由なるが右に對し菱谷檢事は意見を附したりと彼等は果して如何なる辯明の辭を有するにや

●亂暴の原因不明　去る十六日午後二時頃御成町に於て南大門派出所詰江口巡査が乞食体の韓人が裸の儘狂態を演じ何ぼ附近の韓人家屋に入り亂暴を爲さんとするより之を制し彼が所持品を一纏めにせんとする際南大門驛構內伊藤組車夫中川粂吉（三七）突然傍より出で巡査に妨害し且つ暴言を吐きたるより職務妨害として西部署に引致目下取調中なりと

●過失創傷三十錢　寶來町一丁目十八番戶齋藤直吉（三三）は十七日午前八時三十分頃南大門通り海產物市場に於て西部阿峴二百十七統二戶金龍全（十九）なる者より氷を買ひ是を手鈎にて破らんとする際過つて金龍全の左足に打込み輕傷を負せたるも治療代三十錢を出して事すみ

●三遊亭千朝歸る　去る三月以來南韓及び北韓方面巡業中なりし當地在住の落語家三遊亭千朝は數日前歸京し從前の通り座敷の招きに應ずる由

●困まった惡戲者　十七日馬山昌原兩驛間を進行中の列車に投石したる者あり三等客車の窓硝子一枚を破壞すと

目と耳

▲歌舞伎座●　奇術界の大達物宮脇天外一座の演藝種目は既載の通りなるが初日は非常の好景氣なりしと今晩も例の如く午後六時開場演技すべし

▲壽座●　新劇會我の家一座十九日の代り藝題は左の如し雨天にても開場御祝儀室の入船（一場）娘の身替（二場）若女房（二場）芝濱の皮財布（三場）九の世の中（三場）

▲龍山座●　過日當地壽座打揚後仁川歌舞伎座に乘込み開演中なりし三遊亭金馬一座は十八日同地打揚げ十九日龍山に乘り込み即日初日

▲浪花館●　今回木戶場代金十錢均一となしたる同館十九日の番組左の如し荒尾秀丸（浪花松鶴）澁川武勇傳（吉田橋葉）筑前騷動（吉川秀奴）幡隨院長兵衛（岡本伊之丸）いかるが平次の傳義士本傳通し（吉川秀廣）

●上杉忠彥師の轉任　南山本願寺別院在勤上杉忠彥師は從來五年間同院に勤續したりしが今般浦頭開敎を命ぜられ同地に轉任すべく來る二十日午前九時當地出發すべしと因みに別院信徒有志よりは紀念として七條の袈裟、色衣等を贈りたりと

平民文庫

▲御無沙汰な仕つた風聞子久々で罷り出た▲我が西小門通りの此の頃は殆んど仲の新地か新町遊廓へ這入つた樣である▲白人賣春ホールが四、日人ホールが八、僅か一丁程の間に以上十二軒ある、而して我社と同業日報子とが此の間に挾んで居る何んだか侮辱されたな氣もするが此れは自分達の得手勝手かも知れぬ▲夫れは兎に角此の連中が一緖して太平町通りからの入口と日報社の先きの井戶の邊どに大門を建てては何うか▲左樣なると關稅局や學部や裁判所の官舍が差し向き蛤鍋屋や引手茶屋となる順序だ▲落合家、俵家なぞは最も恰好な名である▲マア御繁昌で結構である（風聞子）▲既に食道樂あり酒道樂あり飯道樂ある京城に未だ女道樂の現れざるは何んの故ぞや敢て粹士に問ふ（仁作）▲斯樣に澤山あるのに未だ入用のですか（小僧）▲此の頃小料理屋が閑だと見へて下宿を兼業して居る所がある女附きで十五圓だとか現に御社の隣り日の出亭にもハイカラ男が一人下宿して居る（素見客）▲大間違ゐです彼れは日の出亭の管理者菊枝が情夫でムる（小僧）▲小僧の僻に此樣事は能く知つてるナア（係）▲横山校長よ君が龍山の弟分に賴まれて落度なき部下女教員の或る者を馘り其の一家に壓迫を加へんとしつ〻ありとの風評がある果して事實ならば不都合ではないか（探知生）▲尋人稲垣重君今は何所に住居すか至急面談したいから僕の宅まで（京城南部水下洞十七統一戶前川原生）▲爵金の御伊達では無いぞちびつた時に知れぬよう」僕は是で思い附いたと云ふ譯ではないが褌に紺の兵子帶を用ゆる事にした第一汚れ目が視ねない人の前でも氣兼なく洗濯が出來る干すにも白い長い奴はドウモ不體裁だが兵子帶なら差支なからう又此下帶が上帶ともなる行つて見給へ此れは良い考へと首肯するは必定の事だ（總角生）▲總角生君だけに頗る無性な事を考へたるものだ早く女房の好いのを世話しなくつちや（小僧）

今日の運勢

七月十九日（舊六月十二日）●九紫大安乙酉二黑△一白●失錯多き日諸事保守主義の事旅行及談講効無し△二黑●一生面を拓く日とす仕官就職相談婚談養子の談吉△三碧●不統一に了り易し新事見合せの事病疾衞生に注意すべし△四綠●康寧の日なり大抵吉家庭內の事煩累あり△五黃●誘獎提言に傾く勿れ交際上衝突を招ぐ勿れ△六白●新事見合せの事建築土木金屬の事には吉△七赤●窮厄の日諸事手控への事印章證券の事故障起り易し△八白●懇願要求にあふあり家族家庭の世話事あり△九紫●新事旅行行商婚談談議誹囚證券の故障及盜難注意の事（本町五丁目三一錦判斷）

●天氣豫報（自十八日午後六時至十九日午後六時）

東風雨後曇

十七日（華氏）　最高溫度　七五、七　最低溫度　六五、一

美術半襟帯締其他紙類各種

電話一千四百〇九番

ゐり徳商店

消化と毒けし

完全ナル懷中藥

THE JINTAN 仁丹

仁丹主効

●痰咳溜飲 ●腹胸痛み ●氣の鬱ぎ ●頭痛目眩 ●舟車酔ひ ●惡酔宿酔 ●むかつき ●吐き下し ●暑冷水傷 ●食慾不進 ●口熱口臭 ●惡疫豫防

利益買方

仁丹の五十錢包は十錢包の七倍分あるの上に優美なる懷中容器又は英國製家庭容器一個添付

●仁丹の三大偉力

●卓越せる消化力

●絶倫なる毒けし力

●強大なる……殺菌力

此三力こそは胃腸の守護神とも謂つべき我が仁丹の最大特長なり、時は今夏期に入る

何人も大に仁丹を活用せられよ

代理店 京城 新井藥房

入院随意

内科 外科 小兒病 梅毒淋病

院長 陸軍軍醫正 高井貞治

京城壽町三丁目

高井醫院

電話（二一六）

入院随意

京城西小門通六番戸

菅醫院

電話一三一五番

身體の丈夫は一生の德

弱き御婦人は中將湯を召上れ

子宮病 血の道 産前産後 良藥

中將湯

本舗 東京 津村順天堂

紙と印刷

諸紙 和洋帳簿 印刷 各種製本

諸官衙御用

播本商店

京城本町六丁目

電話百拾番

天下無敵高等紙卷

美術寫眞入煙草

品質良好 香味佳良

原料精撰 價格低廉

製造元 大石大郎商會本店

發賣元 西大門驛前 大石商會出張所

御待合 紅葉

南大門通三丁目光宣門側

電話一三八二番

きゝめのある温泉湯

此の温泉は左の如き病に最も妙なり

一かつけ、痔疾、リウマチス、腰痛、中風、ひぜん、梅毒、りん病よこね、子宮病、血の道、神經痛、やけど、マラリヤ、せんき膓胃加答兒、凍傷、がんがさ、其他内用には鐵冷温泉を併用すれば尤も効能あり

貸席

京城本町一丁目郵便局前

鐵冷温泉

電話千四百十一番

貨物運送取扱

税關貨物取扱

危險擔保附運送品

代金付貨物運送

貨物引換證發行

内國通運株式會社

京城南大門驛前 京城支店 電話七〇八番 電話一七九番

仁川驛前 仁川出張所 電話五一一番

草梁驛前 釜山出張所 釜山驛前電話六二六番 草梁驛前電話五三七番

龍山驛構内 龍山出張所 電話二〇六番

京城曙町（電話二八七番）

統監府御用

宮内府御用

入院随意

京城壽町三丁目（電話二七八番）

中島醫院

院主醫學得業士 中島貞信

馬車配達

●●●滋養と牛乳●●●

純良 牛乳

京城東四軒町

岡野牧場

電話壹〇六九番

●●●衛生と消毒●●●

滋養 高等牛乳 強壯

韓國畜産株式會社

南大門外 電話八八番

夏の和樂園

御料理 貸席

高田家

電九三七

不相變御引立之程乞

味噌醬油製造元

諸物問屋

京城本町五丁目

大上商店

電話二五一番

新茶 ビール 大賣出し

營業科目

和洋紙類 印刷附屬品 印刷インキ 和洋書籍 防腐ヂシン 穀物食鹽 諸染料類

委託販賣

東京 ランバート商會代理店

東京 中外アスファルト株式會社代理店

東京 千代田生命保險相互會社代理店

藤田合名會社

東京 博文館發行書籍特約店

東京 金港堂發行書籍特約店

本社 京城明治町二丁目（電話二三〇番）

出張所 東京十番地 京橋新電話三六 南鍋町一丁目二九

旅館

京城南山町三丁目

京城ホテル

電話長一二三番 四九二番

日本室和食

特等（三圓五十錢）

一等（二圓五十錢 壹圓八十錢）

二等（壹圓六十錢）

三等（一圓 壹圓五十錢）

廣告

前間恭作氏著

韓語通

定價壹圓五十錢

郵稅十錢

今回貳千部に限り壹圓廿五錢にて販賣可致候間御注文の程奉希候

韓國京城本町五丁目

和洋金物商

釘本藤次郎本店

長電話四五番市價略號（ク）

振替貯金口座韓國二五六

明治廿六年七月創立

京城代辨店 本町四 山口呉服店 電話九番

東京海上運送保險株式會社

資本金一千萬圓 ●事務所 京城南大門通二 電話一〇六〇番

資本金 一千萬圓

積立金 五百四十萬圓

株式會社 第一銀行京城支店

電話一一一番 六一一番

銀行一般の業務は確實を旨とし精々御便利に取扱申候

本店 東京市日本橋區兜町

支店及出張所 大坂、京都、横濱、神戸、名古屋、四日市、下關、新大坂町（東京）、兵庫、伏見、西區（大阪）、釜山、其他日本韓國各地並に海外樞要の場所に爲替取引先有之